

院長の独り言

(2015年4月16日執筆)

3月24日と31日に左右の白内障手術を受けました。白内障という病気は、目の瞳のすぐ後ろにある水晶体というレンズが、加齢とともに濁ってくるので、目の中に入ってくる光が減って、物が見にくくなります。白内障の症状としては、物がぼやけて見えたり、強い日差しや車のヘッドライトなどによって目の前に白い幕がかかったようになっていたりして非常に見にくくなります。私の場合は、明るいところでの視力が急に落ちてきたので眼科で診断を受けましたら、すぐに手術をした方がいいと言われましたので即決しました。

手術は、麻酔薬を注射するのではなく点眼する麻酔ですので、全く痛くありません。手術の最中に手術する先生や器具が見えるのではないかと心配しましたが、ピンクと白の光がパツパツと見えるだけですと安心してました。手術の内容は、水晶体を包んでいる袋に3mm程の切開を加えて、超音波で濁った水晶体を取り出し、そこに人工の眼内レンズを挿入します。手術中も全く痛みは感じませんでした。手術は正味8分くらいで終了します。手術した目にはガーゼを当てますので、翌日まで片目になって、それだけが不自由ですが、手術が終わればそのまま帰宅できます。術後の痛みも全くありません。

翌日の診察のときにガーゼを外すと、その瞬間から周りの世界がクッキリハッキリ見えて大感激です。私の場合、術前には0.7位に落ちていた視力が、1.5に回復しました。目の中に石鹸などが入らないように、1週間洗顔と洗髪ができませんが、車の運転を始め目を使うことはすぐにできますので、生活面の不自由はほとんどありません。術後に夜の運転をしたら、車のヘッドライトが随分遠くまで届くようになったと感じましたが、勿論以前はいかに見えていなかったのかということです。

日帰り手術が普通になった白内障手術は、ほとんど安全にできて、術後の視力の回復が劇的です。白内障らしき症状がありましたら、すぐに眼科を受診され、手術を勧められたら是非とも手術を受けられることをお勧めします。『世界はこんなにも鮮やかで美しかったのだ！』

